

## 児童生徒（保護者）視点

① 児童生徒が自らの学びをデータで振り返り、次の学びにつなげる

※ 保護者もこれらの情報を提供され、子供の状況を把握することにより、適切な声掛け等が可能になる

## 教職員視点

### （生徒指導）

② 学校で様々なデータをダッシュボードで可視化することによる効果的な学級運営、きめ細かい個別指導・支援

### （学習指導）

② 学校で様々なデータをダッシュボードで可視化することによる効果的な学級運営、きめ細かい個別指導・支援【再掲】

③ 児童生徒が問題を解いた結果を活用することによる効果的な学級運営、きめ細かい個別指導・支援

④ 児童生徒の学びに関するデータを広く活用することによる効果的な学級運営、きめ細かい個別指導・支援

## 教育委員会視点

### （学校の実態把握、支援等）

⑤ 教育委員会がリアルタイムで学校の状況を把握することによる指導・助言の支援

⑥ 教育委員会がデータを活用して、要因分析等を行うことによる施策改善、学校への指導・助言

### （他機関と連携した児童生徒への個別支援）

⑦ 教育委員会が他機関とも連携し、必要なデータをやりとりすることによる必要な児童生徒への個別支援

※本利活用ケース案と以降のスライドは、これまでの教育データの利活用に関する有識者会議での発表事例及びそれを踏まえた意見交換で出された内容をもとに整理したもの

# 利活用ケース1： 児童生徒が自らの学びをデータで振り返り、次の学びにつなげる

## 概要

児童生徒自らが計画した学習計画と実際の学習状況のデータ、テスト結果、児童生徒に実施したアンケートの集計結果などを児童生徒本人にわかりやすい形で見えるようにする。また、こうした情報について、保護者にも共有する。

## 期待される効果

- **児童生徒：**
  - ・ 児童生徒自身で設定した学習計画に対して計画通りに学習を進めることが出来たかを、学習計画表とデジタル教材の利用ログから確認したり、デジタル教材の学習履歴から確認して、自らの学びを振り返ることで、自分で計画を立てて主体的に学ぶ力を身につけることができる。
  - ・ 自動採点によりテスト結果が即時に分かるとともに、問題の正誤のみならず、回答までにかかった時間のデータをもとに、苦手分野を把握して解き直しを行うなど、効果的な復習が可能になる。
  - ・ 家庭学習時間を任意アンケートで記録させ、グラフ化するなど特徴をわかりやすくして結果を子供たちに返却することで、自らの家庭学習を見直す機会になる。
- **保護者：**
  - ・ 児童生徒が見るデータと同じデータを保護者も見られるようにすることで、保護者も子供の強みや弱みを把握することができる。
  - ・ デジタル教材の利用から、子供たちの取組を記録に基づいて評価し、褒めたり話し合う機会を持つことができる。

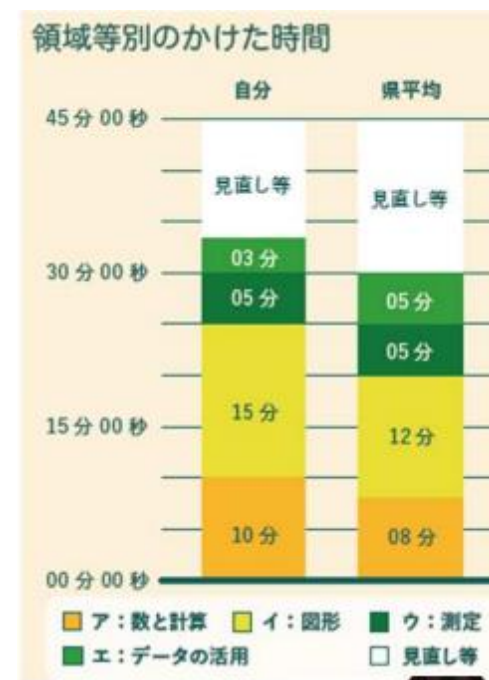
## 留意点・課題

- 児童生徒がデータを解釈する力を醸成する必要がある。
- PBTならではの強みも踏まえ、CBTとPBTの使い分けの視点も重要。

## 考えられるデータ

項目	備考	頻度
地方独自の学力調査		年1回
テスト結果	定期テスト、単元テスト	都度
学習計画表	学習予定時間、単元、ドリル活用予定	都度
デジタル教材内での学習履歴	閲覧ログ、閲覧時間、書込み、問題への回答	都度
デジタル教材の利用ログ	児童生徒別のアプリ別利用回数、アプリ別アクセス日時、単元、利用時間	都度
児童生徒アンケート結果	家庭学習状況について任意アンケート	都度

※ 学力調査やテストの結果としては、正答数のみでなく、解答時間、正答率、解きなおし回数などのデータも考えられる。



## 利活用ケース2：

# 学校で様々なデータをダッシュボードで可視化することによる効果的な学級経営、きめ細かい個別指導・支援

### 概要

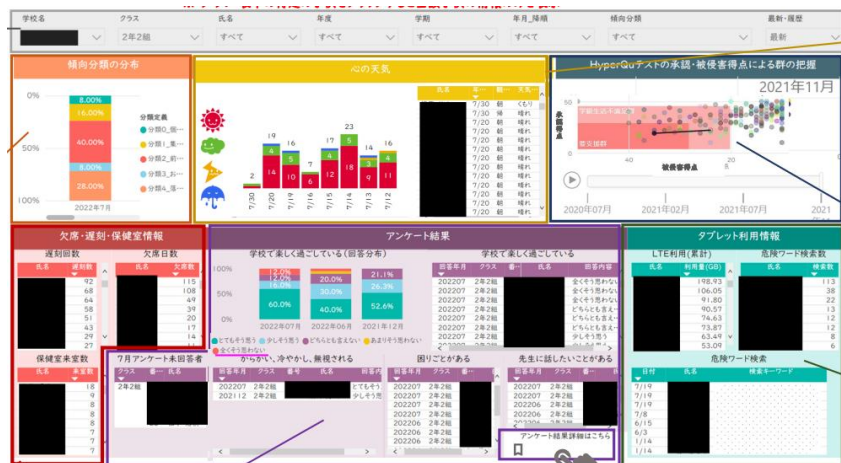
様々なデータを複合的にダッシュボードに集約し、多面的に状況を把握。学校ダッシュボード、学級ダッシュボード、個人ダッシュボード等、活用目的に沿ってデータの見える方を変化させることで、学級ダッシュボードでクラス全体の傾向を把握したうえで、気になる児童生徒については個人ダッシュボードでさらに丁寧に見取ることを可能に。

### 期待される教育上の効果

- **教職員**：様々な視点から児童生徒に関する気づきを得ることができ、児童生徒と1on1で向き合う時間の密度向上、早期対応・支援が可能になる。
- **教職員・教育委員会**：客観的に児童生徒の状況を共有し、チームとして児童生徒一人ひとりを見守り、子供が抱える課題への早期対応や支援が可能になる。
- **保護者**：蓄積されたデータをもとに、学校での子供の様子について教職員から説明を受けることができ、細かく把握することができる。

### 留意点・課題

- データを過信せず、直接観察した情報と組み合わせて使うことが重要。
- 個人情報やプライバシーへの配慮が必要。
- 多数の情報からの適切なデータ選択、見落とさない仕組みも必要。
- 情報の読み取り方や教員のリテラシー向上が必要。
- 異なる学習ツールやシステム等ごとにデータの形式や格納場所が異なると、横断的な分析ができない。学校ごとのニーズに応じたカスタマイズと学校横断的な把握が可能な共通ルール（データ項目）とのバランス。



### 考えられるデータ

項目	備考	頻度
出欠情報	出欠席や遅刻、早退等	日毎
健康観察記録		都度
保健室利用状況		都度
その他生活情報	こころの健康観察、朝食の有無、睡眠、アレルギー情報	都度
体カテスト		年1回
児童生徒アンケート結果	QUテスト、学校生活アンケート	隔月
全国学力・学習状況調査		年1回
地方独自の学力調査		年1回
テスト結果	定期テスト、単元テスト	都度
家庭学習情報	家庭学習で取り組んだ教科、時間、評価	都度
パソコン操作ログ		都度
Webアクセスログ		都度
LTE利用量		月1回
個別の教育支援計画	支援が必要な児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒、不登校児童生徒等の情報	都度

# 利活用ケース3：

## 児童生徒が問題を解いた結果を活用することによる効果的な学級経営、きめ細かい個別指導・支援

### 概要

学力調査の結果やテストの結果など、児童生徒の学力の定着状況に関するデータを時系列的に表示したり、スタディログと合わせて表示したりすることで、必要な児童生徒に個別にフォローをしたり、学級全体でフォローが必要な分野を把握して授業に生かしたりする。

### 期待される効果

- **教職員：**
- 児童生徒の結果をすぐに把握するとともに、解答時間や見直しの時間からすぐに諦めてしまう動きや時間をかけて正答にたどり着く動きなどを把握し、個々の児童生徒の課題をとらえ、声掛けを行う。
  - 授業中に子供たちがデジタルドリルに取り組んでいる際に、タブレットで子供たち一人一人の進捗を一覧で確認しながら、適切な声かけや個別指導を行う。
  - 学級全体の正答率等から、学級全体でフォローが必要な単元等を把握し、授業に生かす。

### 留意点・課題

- データをもとに検討し、実施した支援策が、実際に児童生徒に対して適切なものであったかについてもセットで考える必要がある。
- 問題が解けているかどうかという指標に依存しすぎず、子供が本当に理解をしているかを見ていく指標を立てていくことが必要。
- 単に個別の知識が定着することを重視せず、概念的理解を形成し、資質・能力の3つの柱を一体的に育む視点が重要。

### 考えられるデータ

項目	備考	頻度
デジタルドリル等でのテスト結果		都度
地方独自の学力調査	教科調査、非認知能力や学習方略を含む質問調査	年1回
テスト結果	定期テスト、単元テスト、ドリル結果	都度

※ 学力調査の結果としては、解答の正誤のみでなく、解答時間のデータも考えられる。

	1			2			3			4		
	正答率	解答時間	見直し時間	正答率	解答時間	見直し時間	正答率	解答時間	見直し時間	正答率	解答時間	見直し時間
埼玉県平均	77.9	44.9	14.5	61.6	16.9	4.3	94.7	11.6	2.7	53.3	38.5	6.8
貴校平均	81.3	65.1	20.2	54.2	15.9	3.2	98.1	11.9	2.7	62.6	41.5	7.1

個人番号	出席番号	性別	1			2			3			4		
			正誤	解答時間	見直し時間	正誤	解答時間	見直し時間	正誤	解答時間	見直し時間	正誤	解答時間	見直し時間
9876543	1	○	30	0	○	16	0	○	13	0	○	55	0	
9876544	1	○	24	22	○	6	14	○	4	11	○	10	10	
9876545	1	○	28	25	×	9	0	○	5	0	×	74	0	
9876546	1	○	46	0	×	28	0	○	16	0	○	93	0	

# 利活用ケース4：

## 児童生徒の学びに関するデータを広く活用することによる効果的な学級運営、きめ細かい個別指導・支援

### 概要

児童生徒のデジタル教材内に記録された学習履歴や複数のデジタル教材の利用ログ等が見える化し、一人一人の学びの型（学びやすい方法、効果的な学び方）などの特徴をとらえることにより、一人一人にとっての最適な学び方を考慮した対応、授業内での効果的なグループ編成等を行う。

### 期待される効果

- **教職員：**
  - 児童生徒別のデジタル教材別の利用状況を確認することにより、子供たちの学びの型（学びやすい方法、効果的な学び方）を把握し、一人一人にとって最適な学びの方法を検討できる。
  - 授業外での学習状況、小テストの結果からの理解度などのデータを活用することで、授業内で協働的な学びにあたり、最適なグループ編成を行うことができる。
  - 児童生徒に、デジタル教材のわからない部分にマーカーを引いてもらうことにより、児童生徒が理解できていない部分を把握し、授業中に丁寧に説明するなど、効果的に授業を実施できる。
  - 児童生徒が授業外で主体的に学んだかをデジタル教材の閲覧時間、マーカー、コメント数などで把握し、必要な声かけを行うことができる。

### 留意点・課題

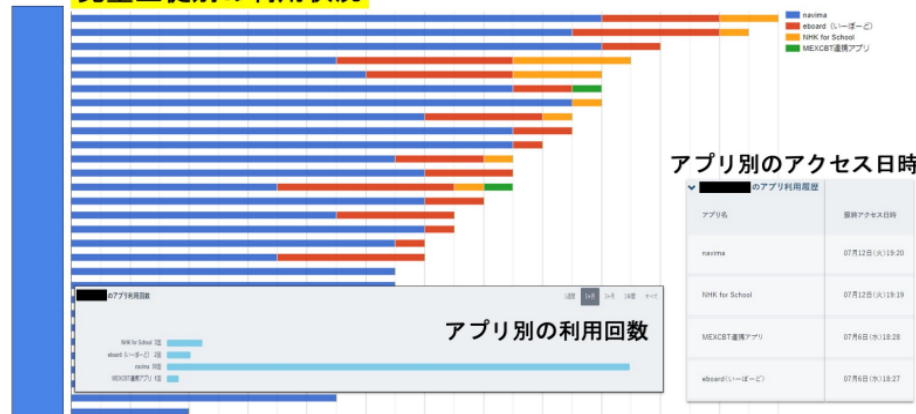
- デジタル教材（アプリ）間でデータ連携が必要。

規定クラス	整理番号	児童・生徒名	1) かけ算						
			①かけ算のきまり				②0%ふり		
			1	2	3	4	5	1	し
4-1	1	児童1	4	3	3	3	2	2	3
4-1	2	児童2	7	1	4	1	1	6	1
4-1	3	児童3	2	2	1	1	2	1	1
4-1	4	児童4		1	2	2	2	3	4
4-1	5	児童5	5	2	2	1	1	1	2
4-1	6	児童6	1	1	2		2	2	1

### 考えられるデータ

項目	備考	頻度
デジタル教材内での学習履歴	閲覧ログ、閲覧時間、書込み、問題への回答	都度
デジタル教材の利用ログ	児童生徒別のアプリ別利用回数、アプリ別アクセス日時	都度
テスト結果	単元の小テスト	都度

### 児童生徒別の利用状況



# 利活用ケース5：

## 教育委員会がリアルタイムで学校の状況を把握することによる指導・助言の支援

### 概要

教育委員会が、各学校における学力の状況、経済的状況、その他学校での取組をリアルタイムで把握することで、支援が必要な学校を把握し、必要な支援につなげる。

### 期待される効果

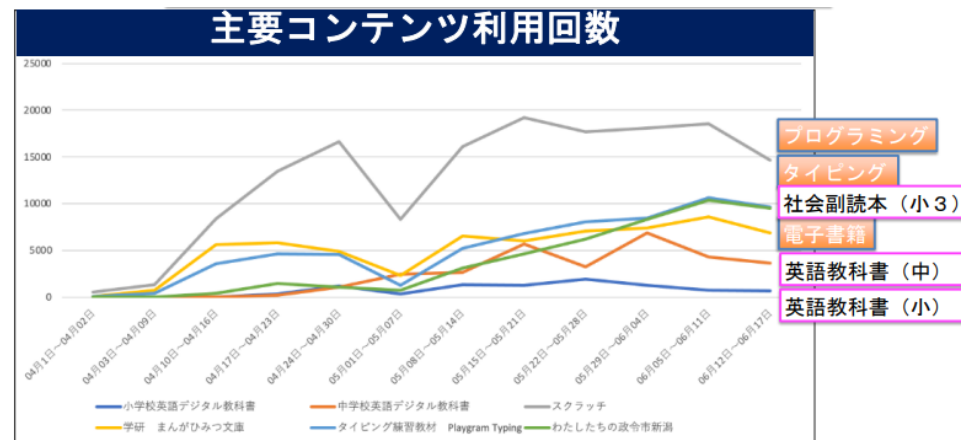
- **教育委員会：**
  - 地方独自の学力調査の結果と経済的状況のデータを踏まえ、支援が必要な学校を判断し、加配をつけるなどの手厚い支援につなげることができる。
  - 教育委員会として活用を促したいものの指標を設定し、活用ログを活用することで、活用が進んでいない学校にヒアリングをし、どこでつまづいているかを把握し、支援につなげる。

### 考えられるデータ

項目	備考	頻度
地方独自の学力調査	教科調査、学校質問紙調査（要保護、準要保護の状況、就学援助の状況）	年1回
活用ログ	いじめ対応マニュアル、不登校対応マニュアル、GIGA支援サイト、デジタルドリル、デジタル教科書、デジタル副読本等 ※教育委員会として活用を促すものを意図的に設定	都度

### 留意点・課題

- 教育委員会が見られる情報、各学校の教員が見られる情報の整理と共に、どのようにライセンス付与を行っていくか。



# 利活用ケース6：

## 教育委員会がデータを活用して、要因分析等を行うことによる施策改善、学校への指導・助言

### 概要

教育委員会内の様々なデータを比較したり、関係性を見える化したりするなど活用し、自治体が抱えている教育政策上の課題の要因分析等を行うことで、施策改善や学校への指導・助言につなげる。

### 期待される効果

#### ➤ 教育委員会：

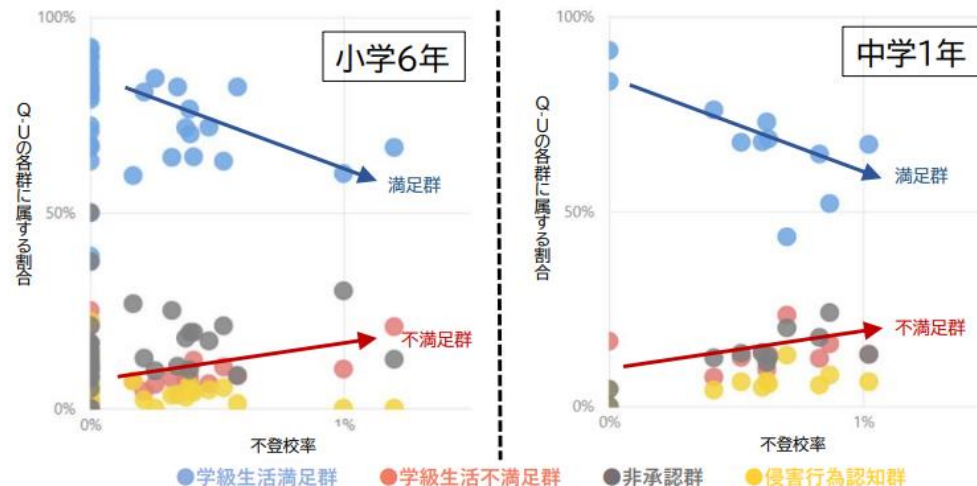
- 各部署が保有している多様なデータを活用することにより、不登校の予兆・要因等を発見し、当該校の対応に関する指導・助言につなげることができる。
- 結果分析をすることにより、自治体の取組についての確認ができ、今後の見通しが明確になるとともに、施策検討・推進のための新しい材料として活用できる。

### 考えられるデータ

項目	備考	頻度
児童生徒アンケート結果	QUテスト（友人関係スコア、学級生活満足度）	都度
全国学力・学習状況調査		年1回
地方独自の学力調査		年1回
行政データ	基礎自治体全体における不登校児童生徒出現率	都度

### 留意点・課題

- 多様なデータをいかに一元化していくか。（所管課の違いによる共有の手間、紙と電子の違いによる処理の難しさ、学校間でデータ項目や形式が異なることにより比較の難しさ）
- 学習、生活状況等の日常的なデータの収集を図るためのシステムをどのように構築していくか。



# 利活用ケース7：

## 教育委員会が他機関とも連携し、必要なデータをやりとりすることによる必要な児童生徒への個別支援

### 概要

教育委員会にとどまらない自治体内の様々な部署が持つデータを用いて、支援が必要な子供たちの情報を多面的に把握できるようにするとともに、支援に関わる機関や職員が横断的にみられるようにすることで、適切な支援を行う。

### 期待される効果

- **教育委員会**：様々なシステムから住民記録、保健衛生情報、教育、財政情報等のデータを一元化し、子供の支援にあたる職員が当該子供の情報を横断的に閲覧し、漏れの無い支援を行うとともに、支援記録を保存することで継続一貫した支援を行うことができる。また、学校にも必要な情報を提供する。

### 留意点・課題

- データ統合のためには、様々な部署が持つデータの規格の統一が必要。
- 虐待やいじめ、不登校などの早期発見、未然防止のためにAI等の技術の活用可能性、期待される効果。
- 困難を抱えている子供が別の自治体に転居する場合の切れ目のない支援をどのように展開していくか。

### 考えられるデータ

項目	備考	頻度
住民情報	世帯構成	都度
障害福祉情報	障害種別、等級	都度
保健衛生情報	健診履歴、予防接種履歴	都度
財政情報	所得、扶養状況、生活保護受給有無、児童扶養手当受給状況	都度
教育情報	通学している保育所、幼稚園、学校情報	都度
支援情報	面談、検査、診察、支援等の情報を入力する	都度

